

■第71回 河川レンジャー制度運営委員会（2024.3.6）議事録

◆出席：中谷委員、北井委員、平山委員、沼田委員、若公委員

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
1. 開会	△安田	<ul style="list-style-type: none"> • それでは、ただいま定刻となりましたので、第71回河川レンジャー制度運営委員会を開催させていただきます。 • 本日は、お忙しい中、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。今年度最後の委員会ということで、各レンジャーの皆様から今年度1年間の活動状況のご報告、加えて、次年度の活動に向けた計画案の審議ですとか、その他幾つか審議事項がございますけれども、主だったところはそういった内容で今回の会議の次第を挙げさせていただいております。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> • ありがとうございました。 • そうしましたら、これより河川財団の中西が進行を務めさせていただきます。 • まず本日の委員会でございますけれども、委員の総数は5名でございますが、こちらの会場にて中谷委員長、北井副委員長、若公委員、ウェブのほうで平山委員、沼田委員にご参画いただいております。全員ご出席でございますので、委員会規約の第8条第2項により、委員会の成立を報告させていただきます。 • 次に、お手元の資料の確認をさせていただきます。本資料が1番から6番まで、参考資料が1から4の4種類、それから別途資料としましてレンジャーの方からの資料が1種類、最後に辞任届の書類を1部つけてございます。以上が配布しております資料でございます。 • 本日、委員以外の出席の皆様ですけれども、次第の次のペーパーが委員名簿でございますが、事務局も含めての名簿になってございます。本日、琵琶湖河川レンジャーの皆様からは西島レンジャー以外の3名のレンジャーに出席いただいております。それから、事務局につきましてはこのメンバーで参画しております。一部ウェブでの参加がございます。 • 本日の議事でございますが、議事次第に戻っていただきまして、これより2番の「報告」から4番の「その他」までとなっております、16時までを予定しております。長時間にわたりますが、何とぞよろしくお願いいたします。 • それでは、以降の議事進行につきましては中谷委員長にお願いしたいと思います。中谷委員長、よろしくお願いいたします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> • 皆さん、本日はご出席いただきましてありがとうございます。お疲れさまです。では、早速ですが、71回の制度運営委員会を始めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 報告 (1) 前回委員会の振り返り	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、今もありましたとおり、2番目の報告事項ですね。3点あります。前回委員会の振り返り、河川レンジャー活動支援室からの報告、レンジャーの年間活動報告ということで順次進めさせていただきます。 ・では、資料-1、前回委員会の振り返りについて説明をお願いします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、お手元の資料-1をご覧ください。前回の議事要旨となっております。こちらにつきましては、委員の皆様にご確認をいただいております。資料でございますし、後ほどの議論もでございますので、ごく手短かに説明させていただきます。 ・前回、第70回は11月14日に行われております。議題としましては、報告事項3件、審議事項2件でございました。 ・報告事項としましては、支援室からの報告ということで、住民と行政をつなぐこと、レンジャートライアルについて、それから河川レンジャーの勉強会を開催したことを報告させていただきました。 ・また、河川レンジャーの皆様からの中間活動報告ということで5人のレンジャーからの報告をさせていただいております。根木山レンジャーからの報告では、今後の上流部への活動の展開について、特にどういうイメージをされているかということで意見交換がなされておりました。また今回の報告の中でも出てくると思います。水上レンジャーの意見交換では、清掃活動に関してどういった企業との取組があるのかというような質疑応答等がございまして、企業等の参画についてのノウハウに関してお答えされておりました。西島レンジャーにおきましては、一般の方へのアンケート、ヒアリング等の形式についての意見交換等がなされておりました。委員の方からノウハウに関するアドバイスがありました。また、野村レンジャーからの報告では、今年瀬田川たんけんたいという活動をされているんですけども、来年に向けて早めに動いていきたいので協力をお願いしたいというご要望や、今後の活動の中では運営体制として仲間を増やしていくことも課題になるというような意見がございました。そういったレンジャーさんの中間報告でございまして、今日の後半の活動報告に生かされているかと思えます。 ・審議事項としましては、河川レンジャーの辞任がございまして、福西レンジャーの解任の議決がされたところでございます。また、規約・活動要領の見直しの議論もございまして、これは今回も審議を継続することになりますが、河川レンジャー任命の年齢制限について主に意見交換をさせていただいております。 ・以上が前回の振り返りになるのかなと思います。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございました。

	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録はもう既に委員の皆様にはご確認いただいているところでありませんが、今の報告の件に関して何かご質問とかございましたか。・・・ないようでしたら、次に進めさせていただきます。
--	--

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 報告	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・では、2点目の活動支援室からの報告をお願いします。
(2) 河川レンジャー活動支援室からの報告	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・続きまして、資料-2になります。支援室からの報告ということで、こちらも少しはしりながら手短かに説明させていただきます。 ・まず、「令和5年度の支援室の主なスケジュール」をご覧ください。前回は11月でしたので、それ以降の活動状況を書いております。12月には河川レンジャーミーティングをいたしまして、1月には河川レンジャーレポートを発行したということです。2月になりまして、河川レンジャーの皆様と琵琶湖河川事務所の皆様の意見交換会、併せて河川レンジャーの研修を開催させていただきました。以降、ミーティングを1度経まして本日に至っているということです。 ・2ページ目に参りまして、2番の「河川レンジャーの募集状況」でございます。ウォーターステーション琵琶のホームページで募集を継続しているところですが、今回、3月6日の時点では応募はございませんでした。 ・「河川レンジャートライアルの募集状況と在籍者」でございますが、現在、5名のトライアルの方が在籍しております。5名の方に今後の意向確認をしたところ、それぞれ理由は様々でございますが、就職なり、大学院への進学なりで、皆様、来年度の更新は行わないという回答をいただいております。今年度につきましては、6月の野洲川清掃に1名の方が参加されたのみになっているという状況でございます。 ・4番の「その他：河川レンジャーへの主な支援」では、支援室の予定行事以外に各レンジャー様がいろんな活動をされているところに寄り添いながらの支援をしているということでございます。 ・3ページに参りまして、「河川レンジャー勉強会の開催報告」でございます。先ほども項目を挙げておりましたが、今年度第2回の勉強会を2月21日に開催いたしました。こちらは野洲川をメインにしたテーマで、「野洲市MIZBEステーションかわまちづくり」という計画について詳しく聞きたい、今後の河川レンジャーの活動にも生かしたいというようなニーズを受けまして、野洲市の担当の方にもお越しいただいて説明をお聞きしました。実際、計画の現地に行きまして、そこで説明を受けて意見交換をいたしました。かなり河川レンジャーの活動の余地があるというようなお話も聞けて、次年度が楽しみになってきております。 ・5ページは、琵琶湖河川レンジャーと事務所の皆様との意見交換会の開

		<p>催報告でございます。第2回となる今回は、現場に寄り添って、現場の実態を詳しく聞きながら意見交換をしようということで、野洲川の現場を見ながら野洲川出張所で意見交換を行いました。出張所のいろんな取組の状況を聞いたり、出張所が地元とつながっておられる情報、どのように関わっていくとうまくいくのかというコツを聞いたりとか、そういう実質的な意見交換ができました。時期も時期だったので、この意見交換を踏まえて次年度のレンジャー活動に生かしていただきたいというところがございます。また、具体的な樹林伐採の方向とか、その他、防災活動に関する取組の可能性というようなところも意見交換で探れたのかなと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8ページに参りまして、こちらは、淀川水系の河川レンジャーには、淀川とか木津川上流とか、いろいろありますけども、今回初めてレンジャーの交流会が淀川河川事務所で主催されまして、これにレンジャーの皆様と事務局が参加いたしました。流域治水という大きなテーマの中でのいろんなアイデア出しとか名刺交換みたいなこともできて、広い視野で、どんなレンジャーさんがいるかというようなことも少し分かったのかなといういい機会でした。 ・ 9ページはレンジャーレポートを発行しましたということで、こちらは参考資料-1としてつけておりますので、またご確認ください。 ・ 以上が資料-2でございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい、説明ありがとうございました。 ・ ただいま説明いただきましたが、レンジャーさんの勉強会なり、あるいは、地元といいますか、まさに河川でどういう取組がされているとか、非常に参考になり、また、よそのレンジャーさんとの交流という機会も設けていただいていたのかなというふうに思っております。 ・ ただいまの報告について委員の皆様から質問とかご意見等ありましたら伺いますが、いかがでしょうか。・・・では、1点だけ私から。 ・ かわまちづくりとか、その辺ですね。地元の市の方が来られたということは非常にいいきっかけになったのかなと思いますが、出てきはる人も「おまえ、ちょっと行ってこい」という感じで来てはったのかもしれないし。ただ、これから、さっきもあつた流域治水とか、そういうところを進めていくには、やっぱり核となる部分があつてうまく地域に広がるような感じですね。その中で、後のパートでも多分出てくると思うんですけど、レンジャーさんの活動とうまくフィットするようなどころが見つかっていけばいいのかなと思ひましたし、事務所さんの取組も「こんなことをやっている」ということをうまく宣伝していただけると、地域の皆さんの関心も高まっていいのかなというふうに思ひて聞いておりました。
	若公	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川事務所の若公と申します。よろしくお願ひします。皆さん、今日はありがとうございました。

	<ul style="list-style-type: none"> ・このまちづくりのところについてちょっと補足をさせていただきますと、資料をもう少し丁寧におつけすればよかったんですけども、今まさに地元の野洲市さんと協議会という形で2回ほど開催をしております。「防災ステーションって何なの?」「MIZBEステーションって何なの?」と。もともと「防災ステーション」と言っていて、堤防が破損・決壊したときに緊急的な資材を置いておくような場所ということで既にあるんですが、それを、100年に1回とか、そんなにしょっちゅうない、あと遊ばせておくのはもったいないということで、もう少し平場にして、平時も市民の方に有効活用していただこうというような取組でございます。名前も「防災ステーション」ではなくて、ちょっと柔らかい「MIZBEステーション」——まあ、zがいいのか悪いのかよく分かりませんが、そういうネーミングで施策展開をしているものでございまして、野洲についても北流側帯のところでも来年度以降整備を進めようというものでございます。 ・したがって、河川管理者としては基盤整備と河川のアクセスみたいなところはやりますけど、いわゆる上物の整備みたいなところは野洲市さんで主体的にやっていただくということで、かなり一枚岩になってやっておる関係で今回も市役所の方のがつつり入っていただいていると。まあ、そんな経緯でご参加をいただいたのかなというふうに思っておるところでございます。というのが1点です。 ・マイクを握ったついでに私から質問なんですけど、レンジアトリアルについてちょっとお聞きをしたいなと思ってまして、5名の方が令和4年度から一、二年間所属していただいて、皆さん更新しないと。まあ、残念なんですけど、特に3回生もいらっしゃって、進学とか就活とか、そういう理由があって致し方ないというところはあるのかもしれませんが、「こうだからちょっと続けられないよ」みたいな、あるいはこちらからレンジアトリアルの方に対してどういうアクションをしていたのかというところが私自身もいまいち見えてないので、その辺りについて事務局のほうからお教えいただければと思います。
△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・トライアルさんは5名いらっしゃって、1名の方は、就職が決まったということだったんですけど、最初は、大阪とか、割と滋賀に来やすいところなのでできたら継続したいという積極的な方でした。参加があまりなかった方については、理由は就職活動が忙しくなるので辞めたいという一言だったんですけども、事務局としては今後参考となる意見を聞きたいなと思っております。お一人からは、こういう活動にすごく熱心で、いい活動だと思っているというご意見だけは聞いてたところがあります。
若公	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・今年度は野洲川清掃に1名の方にご参加いただいただけ、だけと言うと

		言い方が悪いですけど、それは、「こんな機会もありますよ」といろいろお投げしたけど、結果としてこれだけだったと、そういう理解でいいですか。
	△中西	・そうです。
	若公	・なるほど。昨年度もそんな感じだったんですか。
	△中西	・昨年度はもう少し活動に来られてて、四、五回ぐらいです。まあ、トライアルさんにスポットを当てた活動をレンジャーさんが開いてくれたこともあって、そのときにレンジャーの仕組みなどいろいろご説明はしてたんですけども、そのような形になってしまって残念に思っています。
	若公	・はい、分かりました。とりあえず分かりました。今議論するあれでもないのかもしれませんが、今後新たに募集するに当たっての課題かなと思いますので、少しお伺いしました。 ・以上です。
	中谷	・ご指摘の点、ありがとうございました。 ・ほかにはよろしいですか。では、次に進みましょうか。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 報告	中谷	・では、レンジャーさんの年間活動報告ということでお願いします。
(3) 河川レンジャー年間活動報告	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、ここでは資料-3になります。また、それぞれレンジャー様がパワーポイントなりの資料を作られておりますので、それを見ながらということになります。 ・河川レンジャーの皆様から10分を目安に説明を行っていただきまして、質疑応答の時間を5分設けております。まず根木山レンジャーから順に、水上レンジャー、野村レンジャーの順番に報告をしていただきます。 ・レンジャーの皆様には、9分でベルを1回、10分が来たらベルを2回鳴らすという合図にさせてもらいたいと思います。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・河川レンジャーの根木山です。よろしくお願ひいたします。今年度11年目の活動ということで年間活動報告をさせていただきます。報告書がお手元にあると思うんですが、今日はスライドのほうで中間報告以降の動きを少しご紹介させていただきます。 ・まず、11月29日に、今年で3回目になりますけれども、野洲小学校で野洲川学習にお呼びいただきました。今年は野村レンジャーにもご一緒いただきまして、水上レンジャー、あと支援室からも1名、それから住民の方にもゲストでご協力いただき、合計5人で伺ってきました。 ・例年どおりなんですけれども、4年生4クラスを前半1・2時間目で2クラス、後半3・4時間目でまたもう2クラスという形で学習をしました。

- ・建設省がかつてつくられた「野洲川の改修」という記録映画を事前に見ていただいて——すごく古めかしい、今の子供たちにしてみると時代劇を見るかのような印象みたいですがけれども、事前に見ていただいて、それを踏まえて、この学習では、話し合い活動ということで、5人のゲストティーチャーと子供たちが5グループに分かれてもらって、5回転して、映画を見た感想を聞いたりとか、ひたすら話し合いをしていきました。
- ・こちらは映画を見た感想ということで、何に関心・興味を持ったかという手上げアンケートをした結果です。前半と後半とあるんですがけれども、クラスによって興味を持つものが違うんだなというのを感じてもらえたらなと思います。割と洪水とか工事——工事の映像では、人間よりも大きい、巨大な大型掘削機が出てきたりするの、そういうのに興味を持ってくれる人もいるんだなということとか、あと話し合いの様子ですかね。すごく昭和なおじさんたちの姿も出てきて、そういうのも印象に残るんだなというのを感じました。
- ・これが小学生の声の一部です。いろんな声があって、シンプルに改修工事をしてよかったという声も当然あるんですがけれども、一方でいろんなアイデアもあって、真ん中ら辺は「ほうきみたいに、小さい川を沢山作ったり1箇所水が集まらない様にして、大きな川が必要ない。」と。これは独特で、ユニーク、面白いなど。ある意味、流域治水的のかなと思ったり。あと、下から2つ目なんか、この学習では「みんな、改修したほうがよかったと思う？ しなかったほうがよかったと思う？」という問いを投げかけて2回転ぐらい話し合いをしたんですがけれども、そこでも子供たちの中で、賛成・反対、いろんな意見があってまとまらないのに、当時はどうやってまとめたんだろうというような問いを持ってくれる4年生がいたりというのは将来に向けて頼もしいことかなと。こういう問いをぜひ温めて大きくなってもらえたらいいなというふうに感じたりしました。
- ・次は、今年度初めて取り組む野洲川上流部への取組の一つが始まりました。ようやくというところなんですけれども、少し遅れてはいるんですが、始まっております。
- ・端的には、まず1つイベントをやってみて、イベントを通していろんな関係者の方々にご挨拶に回って協力関係をつくっていきこう、そして意見を聴取していきこうということでやっています。イベントをやるのが目的ではなくて、そのプロセスを大事にしていきたいなと思っていますが、昨日、琵琶湖河川事務所のほうの確認も取れたので、一応こういった形で広報を始めていける状態になっております。
- ・活動の内容としては、ここ、野洲川の上流部ですね。国道8号線（野洲川大橋）よりも下流側の左岸で、野洲市さんが占有されている野洲川運動公園に隣接した低水路の部分で清掃活動ができればなと思っています。

す。ただ、ここで清掃活動をするためには、この運動公園の駐車場とかを利用させていただかないといけないというのと、ごみが出てくるので、ごみの処分についても栗東市役所さんのほうにご協力をお願いするというので、そういった働きかけをしております。

- ・あと、後で水上レンジャーからも報告があると思うんですけども、結果的に水上レンジャーと一緒に役割分担を明確にして活動を進めさせていただくことになりました。水上さんには主に栗東市役所や野洲川出張所との連携の部分で動いていただいている、僕は、どちらかというと、広報の面とか地域のほうに入っていくところを役割分担として持って進めていこうということでやっております。
- ・こんな場所ですね。初めて使う場所なので、運動公園の管理者のスポーツ協会さんとも話をしています。初め「この多目的広場で受付がしたいんですけど」と言ったら「いや、ここは駐車場で使うこともあるので駄目です」とか、そういう細かな話をスポーツ協会の担当者の方として、整理しながら準備のほうを進めております。
- ・基本的に栗東市さんはすごく好意的な感じで受け止めてくださっていて、「数年前までは、輪番で何年かに1回は5月30日のごみゼロ斉清掃の活動場所として野洲川の清掃をしたこともあったんだけど、今はやらなくなっちゃったね」みたいなことをベテランの市役所の職員の方がおっしゃっていて、将来的にはもう一回そういうのが復活してもいいのかもといったつぶやきが打合せのときにはありました。
- ・現地はこんな場所です。基本的に運動施設で、使用許可を得て利用者さんが占有するような利用形態なんですけれども、その邪魔にならないように受付とかさせてもらって。まあ、清掃活動自体は低水路ですので、この階段状の護岸がある低水路護岸を下りたところでごみ拾いをして、体験活動なんかもちよっとして、参加された方々との交流を通して意見なんかも聞けたらなというふうに思っています。
- ・あと、ちょうど昨日ですけども、地元のコミュニティセンター葉山のほうにご挨拶に行ってきました。チラシの見本だけ持って行って「こういうのを置かせてもらいたいんです」という話をしたら「いいですよ」と言っていたので、今日事務局から印刷されたチラシを受け取るので、また明日以降にお届けに行ってきたいなと思っております。事務局の女性の方に聞いたら、野洲川で何かやっている住民さんというのはいないんじゃないかなということと、いるとしたら陸上競技の愛好家サークルみたいなのがあるぐらいかなということをおっしゃってました。野洲川で何かをしている住民というのはいないのか、その辺はもうちょっとリサーチしていきたいなと思っております。まあ、そんな感じで進んでおります。
- ・あともう一つは先ほど事務局からもご紹介のあった河川レンジャー勉強

		<p>会で、これは中流部の野洲市さんの取組に関して情報収集をさせていただき、ありがたかったなと思っております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印象的だったのは、このかわまちなんですけれど、守山との対比でどうしても考えてしまうんですけども、地元とかじゃなくて、野洲市民に限らず、広くたくさんの人に利用してもらえたらいいですよという話を市役所の方がはっきりおっしゃっていて、この辺は中洲の事情とはちょっと雰囲気が違うなと思いました。 ・あと、隣接する県有地、旧の北流跡ですけども、そこに林が残ってて、そこを整備している住民グループさんがいらっしゃるそうです。もう既に市役所の方もお会いして話もしてますとおっしゃってたんですけども、その方々からも川に下りていきたいんだとおっしゃっていただいているということ市役所のほうから教えていただいたので、またこういう方々とも出会って話をしていくこともできそうかなと思っています。 ・あと、チュービングができないかという話が河川管理者のほうからもあったので、来年度こういったこともやってみてもいいかなと思っています。 ・河川事務所の意見交換会では、出張所長さんから希少植物の話があって、こういうのを住民の力で移植できないかという提案もいただいたので、それを住民グループさんのほうに提案してみたりしています。 ・あと、下流部の住民グループに参加している魚大好き兄弟から、今度中学校1年生になるお兄ちゃんがいるんですけど、もうちょっと魚のことを深くやりたいという相談がありました。中主の方なので家棟川でやっているピワマスの取組を紹介をしたんですけど、家棟川は大人たちだけで平日にやっているらしくて、中学生は参加できないみたいな話があったので、だったら、野洲川でも自然再生事業でやっていらっしゃるから、野洲川でやってもいいかなみたいな話を今し始めています。 ・以上、こんな状況です。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・根木山レンジャー、ありがとうございました。 ・ただいま報告をいただきましたが、質問、ご意見等々、どなたからでも結構ですので、どうぞご発言いただければと思います。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・提出いただいている報告書の一番最後にある「今後の課題」の最後1行の「ボリューム的なバランスをどうとっていくか」というのは、どの活動について具体的にどういうことが課題なのかというのを教えていただけますか。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・次の来年度の計画のところ具体的に相談できたらなと思ってこのスライドを用意してたんですけども、下流域から上流部、中流部と、情報収集ができた結果、結構いろんなことができそうだなというのは見えてきたんですが、多分1人で全部はできないなという意味です。なので、来

		<p>年度の僕自身の活動をどういうボリュームバランスでどこに注力していくのがいいのかなということを逆に今日委員の方々にもご意見をいただいて、その意見も踏まえて来年度どこに注力していくのかを考えたいなという意味で課題に挙げさせていただきました。</p>
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりました。 ・今のところ、根木山さん個人としては、どこに注力したいというのはあるんですか。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。ずっと下流部でやってきたので、上流側に移動していきたいというのが基本的な考えで。ただ、上流部といっても上流と中流があって、両方とも取り組めそうなことはあるので、そこをどこに絞るのかなというのが悩みどころです。 ・あと、下流部もいきなり「やめます」というわけにもなかなかいかないもので、下流部も細々と継続しながら上流部・中流部のどこにフォーカスを当ててやっていくのがいいかなというのをちょっと悩んでいる、決め手にちょっと欠いているので、委員の皆さんからもご意見をいただいて、考える材料にしていきたいなと思ってます。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりました。ありがとうございます。 ・私の個人的な印象ですけれども、場所も広がって、活動分野というか、テーマも広がっているのも、もしかすると、根木山さんの役割というのがちょっと変わってきているかもしれないなと思ひまして。現場で何かをするというよりも、コーディネーター育てと、そのコーディネーターの人たちとのコミュニケーションみたいなことになりつつあるのかなというふうにお聞き受けしました。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、北井委員、どうぞ。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。 ・下半期にやったことの報告中心でしたが、度々聞いているかもしれませんが、一応年度の最終報告ということなので、下流部のやすたんの活動や中洲でのこども園との関わりは続けてあると思うんですけど、根木山さんの立ち位置的にはどんな感じになってきているのかというのを教えていただきたいです。例えばこども園やったら、何年か続けて川遊びをコーディネートされているので、当日だけ行くというレベルになるのか。やすたんも同じく、どんな形で関わられているのか、現状を伺いたいです。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園さんは先生も入れ替わるので、多分来年度も園長先生が替わられると思うので、そうすると、「勝手にどうぞ」と言ってもできないだろうなという感じはしてます。逆に、中洲に異動してきた先生に川遊びのトレーニングの機会を提供できる、守山市全体の幼児教育の先生たちにそういう機会をつくれるという意味では続けていく価値はあるのかなと若干思ったりはしてます。基本、先生たちも川遊びなんかしたことない

		<p>先生ばかりなので、貴重な機会だなというふうには思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • それから、やすたんの月1の活動はもうご自身たちでも十分できるんですけれども、特に夏場のオープンデイみたいな、やすたんメンバー以外も参加する機会をつくる時はやっぱり少し関わらないとできないだろうなというのと、あと、幼木伐採とか、河川管理者の活動とつなげた活動みたいなのはやっぱり少しつないでいかないと。楽しむ活動だけだったらご自身たちで十分できると思うんですけれども、その辺をどこまでやるかというところかなと。そこも来年度バランスを見て、全てをやるのではなくて、やれることをやっていくということになるかなという感じはしています。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> • ありがとうございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> • はい、ありがとうございます。 • ほかにいかがでしょうか。はい、沼田委員、どうぞ。
	沼田	<ul style="list-style-type: none"> • 先ほどのアンケートの中で、野洲川の川の中に入っていけないので生き物があるかどうか分からないというのが一番下にあったかと思うんですけども、先ほどの図面では、今回上流側で活動されるのに階段護岸から川までの距離が結構あったような気がするんですが、これは川に入れるようなところなのでしょうか。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> • ありがとうございます。 • ちょっとややこしくて、このアンケートが野洲小学校さんで、中流部に当たるのかなと思うんですけれども、野洲市さんの計画では水辺に近づけるような護岸を整備すると。中流部では野洲市さんと河川管理者が、5年計画ですけれども、かわまちづくりでそれを整備されていくということなので、野洲小学校の生徒さんは5年後ぐらいには川に近づけるようになっていくということでは、多分、道筋は見えるのかなと思います。 • ただ、上流部の栗東市さんでは今のところはそういう計画がないので、おっしゃっていただいたように、みお筋のところまでは階段護岸からも少し距離があるので、実際ちょっと近づきにくいという課題は栗東市さんのエリアではあるのかなと思います。
	沼田	<ul style="list-style-type: none"> • ありがとうございます。 • 県でも階段護岸、親水護岸をたくさんつくっているんですが、なかなか活用されないということで何とか活用されるようにしていきたいなとは思いますが、こういう活動をされるに当たって、県に要望とか、例えば許認可でもいいんですけど、もう少しこういう工夫をしてほしいというような要望事項等あれば教えていただけたらと思います。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> • 逆に、どういう要望ができるのかというところを教えてください(笑)。 • 僕も県管理河川の階段状護岸のところ守山市内の子ども園さんと川遊びをすることがあるんですけれども、ハード整備を要望してもなかなかあれですよ。逆に、どんな感じの要望をすると県さんとしてはうれし

		いとか、あつたりするんですか (笑)。
	沼田	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。部分的なところでしたら階段護岸とかもできると思いますし、例えば飛び石とか、そういう石が必要であれば、現場で出てきたのを川の中に影響のない範囲で置いたりとか、そういったこともできるのかなというふうに思います。そういう活動をされるときにいろんな要望があれば、うちの事業でも参考にしていきたいと思いますので、また教えていただければと思います。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。すごく心強いです。河川レンジャー活動以外で県管理河川とかで活動することもありますので、ぜひいただいたご意見を参考にして、また河川管理者のほうにお伝えできるようにしたいなと思います。
	沼田	ありがとうございます。
	若公	<ul style="list-style-type: none"> ・1点関連で。 ・中流部のMIZBEステーションの関係で、協議会の中でも「近づけるようにします」という説明をしたときに委員の方から「いや、この辺はそもそも入ったらいかん」と。特に落差工のすぐ下流に当たりまして、「入ったらいかんよと学校では教えているけど、それはどうするの」というようなご指摘をいただきました。そこはまだ結論は出てないんですけども、少し所内でも議論をしていて、この際、まちづくりということで、落差工を「入ったらいかん」というところではない施設にできないかどうか——どこまでお金と手をかけてやるかというのはありますけど、今そんな議論もし始めているところですので、また今後いろいろとご相談をさせていただくこともあるかもしれませんがということで、情報提供です。 ・以上です。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・いろいろ尽きないんですけど、時間の都合もあるので、まただ言い足りないところは後のほうでお願いします。
	△中西	・では、次は水上レンジャーからです。
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・河川レンジャーの水上です。ただいまから今年度の活動報告をさせていただきます。私のほうは、資料-3の7ページからご覧いただいて、その後に補足的にパワーポイントで説明させていただきますので、よろしくをお願いします。 ・まず、7ページの「今年度の成果目標と達成度」ということで、野洲川の河川清掃については、これは私のメインの部分ですので、後でまたパワポできっちり説明させていただきます。ただ、評価としてはBにしております。 ・次は、8ページ、樹木再繁茂対策。これにつきましては、現地調査の結果、夏や秋にやってたんですけども、非常に労力がかかるので冬場にしようと考えていたところ、河川管理者のほうが私らの活動を見て動いて

	<p> いただいて、全面的にその辺の伐採をされて、特に私どものほうでする必要がなくなったと。これは一つの河川レンジャーの成果とは思っているんですけども、そういうことで実際できなかったものですから、これはD評価にしています。 </p> <ul style="list-style-type: none"> ・親水公園の利用促進のところは、野洲川河川清掃のときに利用して、イベントについて参加者に「どういことをやりましょうか」というのを提案してもらいながら進めました。 ・「住民の声（想い）を聴き、届ける」というところは、野洲川河川清掃参加者にヒアリングを行いました。これもC評価ですね。 ・あと、根木山レンジャーの話にも出てきた野洲川中流部・上流部の活動につきましては、中流部での活動は、野洲川の詳細な現地調査を行って、MIZBEステーションについての事前調整を行いました。上流部では、根木山レンジャーと3月16日に実施する予定であります。 ・次、具体的なところは、河川清掃のところは飛ばしていただいて、10ページの野洲川中流域の取組です。 ・当初、琵琶湖河川事務所がオムロンと幼木伐採の調整に入っておられて、そのときに河川清掃の話をしたら「1年目だから待ってくれ」ということになりました。その後、新たに北流側帯にMIZBEステーションができるという計画を聞きましたので、その付近の詳細な調査を行って、ちょうど支援室も勉強会をしてくれましたので、MIZBEステーションのかわまちづくりについて事前調整を行いました。それと、現地で詳細な説明をしていただきましたので、これは後で計画にどういうふうに盛り込むかというところを説明させていただこうと思いますけども、来年の活動に向けて地元自治体との調整を図ります。 ・上流の栗東市での取組は根木山レンジャーとですけども、根木山レンジャーがメインでやられて、私の活動内容は行政及び企業との調整を主体的に行うと。こういうネットワークづくりをして来年度の計画に結びつけるということで、これは後でまた計画のときに説明させていただきます。 ・次、パワポのほうで補足説明をさせていただきます。河川レンジャーの役割は調整をすることですので、今回いろんなところの調整をしましたところを補足説明させていただきます。 ・「住民と行政がともに活動する」と書いてますけども、みんなでやりましょうということで、関係者に対しては全て訪問して対面方式で調整を行いました。この6つ、地元自治会、企業、地元中学校、地元住民、守山市、それから琵琶湖河川事務所。水色が行政ですね。 ・具体的にどのような調整を行ってきたかといいますと、まず事前調整。自治会のほうは、中洲学区の秋の行事についてヒアリング。これはなぜかという、過去に行事が重なってしまっ河川清掃に集まる人が少な
--	---

かったということで、実施日時を決めるために秋の行事を全部調べて、中洲学区の実施日時についてヒアリングを行ってます。特に今回、中洲会館に行ってよかったのは、人事異動で替わられていたので、野洲川河川清掃についてきっちり説明を行って日時を決めました。そのときに自治会にも行事予定を聞くようにアドバイスをいただきましたので幸津川自治会のほうにも行きまして、結果的に11月11日に実施することを決めております。

- ・次に、企業と地元中学校ですね。レイマックのほうは、これは住民主体に持っていきようということで、今回ボランティア委員会の委員の方々と打合せをすることができました。その打合せを受けて、住民主体に向けて、このボランティア委員会を中心に野洲川河川清掃を実施していただけるように進めました。結果的に物すごい成果までは出てませんが、その一歩としてできたのではないかと思います。そのために、制度の概要、清掃活動の細かいこと、それから今年度の実施計画概要を説明しております。
- ・立命館守山中学校はまた新しく先生が替わられまして、これも行ってよかったと思っております。新しい顧問の先生と野洲川河川清掃について打合せを行いました。立命館守山中学校はずっと清掃に関わっていただいておりますので、その関わりについてとか、特に昨年は幼木伐採と炭づくりを中心になってやっていただきましたので、先ほどの幼木伐採がなくなったことや秋の計画概要について説明しました。それから、参加人数について確認したところ、1年生を中心に10人程度参加する生徒がいるということを情報として仕入れました。
- ・地元住民のほうは、参加してもらうための調整をしております。支援室に支援していただいてポスターをつくって、ここに書いてますように、参加者を増やすために、公民館や自治会、郵便局の掲示板とか、児童公園などの掲示板があるところを全て調べて、そこにポスターを掲示してもらいました。中洲学区自治会の掲示板には28か所掲載しております。また、地元住民の方に分かってもらえるように、中洲会館、もりやまエコパークにも調整をしております。
- ・あと、行政のほうです。守山市は、いつもごみ処理の問題がありますので、ごみ処理の申請手続と、それから全体計画を進めると。今回、特に行政と一緒にやるということで、守山市長も替わられましたので、守山市長に直接は会えませんが、秘書の方とか、そういう関係するところに行って参加者の確認をしようと思います。琵琶湖河川事務所も所長が替わりましたので、そういうところも参加できますかという話の調整。あと、2番目のごみ処分の減免手続とか、そういう申請の手続についても行政のほうからしてもらおうということで調整をやりました。これが行政との調整ですね。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は河川レンジャーの調整とはどういうことだったかというのを説明させていただきましたが、そういったことをいろいろ調整した結果、「住民と行政がともに活動する川づくり」をテーマに、第1部で野洲川河川清掃を行いました。第2部は、皆さんからの意見もお伺いして、近年全国で想定外の災害が起きてますので、この前も地震が起きてますので、今回は非常炊き出し体験をしてもらいましょうと。その火をおこすのもチャッカマンやライターを使わない原始的な摩擦方式あるいは火花方式でやっていただいて、この後、ここに載せておりませんが、お湯を沸かしてラーメンを食べたということで楽しくやってもらいました。この活動は、2017年から6年間、毎年実施しています。 ・「成果と課題」ということで、今回大きな成果はないんですけども、特に成果があったのは、住民主体に向けて、レイマック株式会社のボランティア委員会を中心に、野洲川清掃を実施いただけるように進めました。清掃の今後の課題は、先ほど説明したように掲示板にいろいろ広報しましたけども、地域住民の参加がほとんどないということで、ここがちょっと課題かなと思ってます。あと、住民主体の活動に向けては、先ほど言いましたように少し進みましたが、まだまだこれからの大きな課題ではないかと。 ・あと、令和5年度の活動の課題ですね。野洲川中流・上流域に向けた活動ということで、これは根木山さんと同じような形で計画のほうで詳しく説明させていただいて、またご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。 ・以上です。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・水上さん、ありがとうございました。 ・ただいま発表いただきましたが、委員の皆様から質問、ご意見等お伺いいたします。どなたからでも結構です。どうぞご発言ください。・・・委員の皆様、どうですか。はい、沼田委員、どうぞ。
沼田	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの最後のスライドですが、一番上に書かれている、レイマックさんのボランティア委員会が中心になって清掃活動を実施していただいているところまで進んだというのは非常にすごいことだと思うんです。それまでにいろいろと苦労されていると思うんですけども、苦労されたこととか、何かコツというか、うまくいくための取組とか、そういったことをもう少し詳しく教えていただければと思います。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・ここにはすごいことを書いているんですけども、実際はあまり進んでないというのが現実なんです。 ・特にここまでに苦労したのは、一番最初、これはもう6年ぐらいになりますが、6年間ずっとレイマックさんには、言い方は悪いですが、付き合っていていただいています。その中で、いろんなことで訪問して、毎年担当者の方にはいろんなことをお聞きして、そういうことで信頼関係ができた

		<p>ところでやっとなんか去年ぐらいから少し話をさせていただいていると。それがちょっと苦労したところです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ただ、実際、ここには書いてますけども、まだ住民主体のところまでは行ってません。委員会の方に出てきていただいて、そこで議論していただいたということで、まだ始まったところです。だから、何年かかけて信頼関係をつくらないとここまで来なかったというのが現実で、今後の課題の2番目にも書いてますけども、住民主体の活動に向けて委員会が中心になってできるように進めていきたいというふうに思っております。
	沼田	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ほかにいかがでしょうか。はい、北井委員、どうぞ。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> 1年間、活動お疲れさまでした。 活動報告のABC評価があるんですけど、幼木伐採のところはDなのは、やらなかったからと納得したのですが、C評価をつけていらっしゃったものもいろいろあって、課題だと思われているところは何かあったのでしょうか。意見聴取の部分でももう少し目標を高く持っていたらいいのかなと思ったのか。どういう感じのC評価設定になっていたらいいのかなと思ったので、伺えたらと思います。
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> 例えば今言われてました意見聴取のところですけども、私も前から考えとるんですが、意見聴取をするのが目的ではなくて、本当はそれを生かせるような調整をしないと駄目だと思っているんです。だから、これがなかなか生かせてないというところがありまして。実は新たに考えていることがあって、この後の計画のところでもまたご意見をいただければと思うんですけども、単純に意見聴取じゃなくて、本当の河川レンジャーはそれをどう生かしていくかというのが——難しいんですけどね。そこができてないと。まあ、できる機会もなかったというのもあってCにしています。 もう一点は、野洲川中流のところはまだ始まったばかりですからCにしていると。 それから、あめんぼうの利用は、それがメインではなく、言い方は悪いですけど、野洲川河川清掃の付随的にやっている部分がありますので、そこはC評価ぐらいしかできないかなと思ってます。ただ、野洲川河川清掃は、先ほど言いましたように、相当調整をしながらやっていますので、これは私としてはB評価で十分いけるとおもっています。まだ住民主体になってませんので、さすがにAまでは行けませんけど。そういう評価で考えてます。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございます。 何か印象的なご意見というのはありましたか。
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> 毎年活動に対しての意見をいただけてますが、野洲川だと一般的な話し

	<p>か出ませんので。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それが出たのは、9ページが一番下ですけども、防災かまどとかをやった結果ですね。「野洲川は思ったよりもきれいだった。みんなで川を守っていきたい。」「野洲川の清掃体験をこれからも続けた方がいい。」とか、新たにやった火おこしについては「大変だなとしみじみ思いました。」とか「家のガスコンロがどれだけ有難いかを知った。」というような感想をいただいています。 ・では、これを受けてどうするかというと「野洲川の河川清掃を続けていったほうがいい」というくらいで、何か新たな活動に結びつくかというのはちょっと取れませんでした。
北井	・ありがとうございます。
中谷	・ほかにいかがでしょうか。はい、若公委員、どうぞ。
若公	・10ページのところでオムロンさんの名前が出てきたと思うんですけど、これはどういうふうにオムロンさんと接点を持つに至ったのかとか、あるいは、これから調整が本格化されるというふうに思っているんですが、オムロンさんのほうはどういうことを期待してお付き合いをし始めていただいているのかみたいなのところがあれば、分かる範囲で教えていただければと思います。
R水上	・結論を言いますと、オムロンとは全くまだできてません。なぜかと言いますと、実は、琵琶湖河川事務所のほうでオムロンさんに幼木伐採を去年ぐらいから働きかけておられて、それをやりましょうという形になったんです。それで、調整した結果、初めて幼木伐採をするからもう少し待ってくれという話で、結論としてはオムロンさんについては今待っている段階です。
若公	・分かりました。ごめんなさい。失礼しました。
R水上	・私の説明がまずかったかもしれません。
若公	・いえいえ。
中谷	<p>・はい、ありがとうございます。</p> <p>・いろいろ言い足りないことは次の計画のところをお願いして、時間のこともあるので、次、野村レンジャーの報告をお願いします。</p>
△中西	・野村レンジャーは、資料-3の15ページになります。また、お手元に別冊の報告資料をご用意しておりますので、それも参考にお聞きください。
R野村	<p>・皆様、こんにちは。野村です。いつもありがとうございます。</p> <p>・今見ていただいている写真は、2月24日（土）、瀬田川たんけんたい最後の活動で撮っていただいた全員写真です。初めて全員がそろいまして、本当にうれしかったです。そのときに支援室の方が大きなはしごをわざわざ持ってきてくださって、「記念やさかい、撮るところ」と言ってくださったので、すごいうれしかったです。お手元の資料にはまたちょっと違う写真が入っているんですけども、これはお顔が見えると思います。</p>

- ・それでは、1年間を振り返っての私の報告をさせていただきます。1年間ですので繰り返しお話をしていることが多いんですけど、ごめんください。
- ・私の活動は、行政と流域住民がともに川の姿を自分事として捉え、川を守り育てる意識と行動を引き出すことという目的で行っております。
- ・今年度は、地域資源の発掘・理解と地域住民・行政との関係づくりをベースにして、親子クラブ「瀬田川たんけんたい」を始めました。取組の効果を高めるために学校での学習との関連を整理しました。
- ・実際に歩いたり、訪問したり、資料に当たってというようなことを繰り返しながら、スライドにあるような地域資源を見つけたり、その理解を図ったりしていきました。
- ・瀬田川たんけんたいは、先ほど申し上げたように、地域資源の豊かさや重要性について理解を深めるとともに、瀬田川の姿を自分事として関わろうとしていく心と態度を育むという目的に応じた活動を7月の末から、2か月に1度、最終土曜日に行ってきました。
- ・第1回の活動の様子です。川の安全と洗堰の役割についての講座、Eボート体験、そしてアクア琵琶の見学を行っていきました。
- ・第2回は、瀬田川下流の大石地区の川での観察会でした。河原の不思議な景観を初めて見る方が多く、大変近い場所に住んでおられるにもかかわらず、洗堰から下のほうについては全然行ったことがないんやと言われる方が多かったです。甌穴に手を入れて、石が入っているとか、砂の中に金があったり、トパーズがあったりすることもあるんやでという話を聞いたためによく見ていました。
- ・第3回では、漁船に乗って貝かき漁を体験しました。瀬田町漁協で組合員さんから取れる貝の種類とか漁獲量の変化のお話を聞きました。貝の体の仕組みを学習して、ストラップ作りなどをしてお土産に持って帰っていただきました。体験で取れた貝だけではないんですけども、漁協の方が、「取れんかったらかわいそうやし」と言って、いろんな貝もまた加えて用意をしておいてくださいます、それを皆さんで等分に分けて持って帰っていただきました。
- ・第4回の活動の様子です。瀬田川に飛来する水鳥の観察会を行いました。草津のコハクチョウを愛する会の皆さんにご協力いただきました。何台も望遠鏡を用意してくださって、双眼鏡の使い方も教えてくださって、34種類見られたんですけど、多くの種類を大変に丁寧に見ていくことができました。まとめでは、会員の方が作成されたスライドを見ながら今回観察できた鳥の特徴を解説していただきました。子供たちも「何種類覚えた」と言ってすごくたくさんしっかり覚えて、観察しながら帰るといふ姿が見られました。
- ・第5回は、まとめのマップづくりをしました。まず、みんなで瀬田川の

	<p>パズルをして、施設や星などの目印をもとにピースをつなぎ合わせて大きな瀬田川をつくりました。その後、画用紙に各自心に残っていることを絵や言葉で書いて、マップに貼りつけていきました。みんなの思いの籠もったマップはそのこのホールの壁に展示してありますので、またご覧いただけたらと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回の最後に、全ての活動を振り返って、アンケートにご協力をいただきました。記述項目が多くて申し訳なかったなと思ってたんですけども、皆さん、じっくり考えながら書いてくださいました。 ・アンケートの結果をご紹介します。心に残っていることを尋ねた項目では、1つだけと言ったんですけど、どの活動にも満遍なくあったんですけど、石探しが子供にとっては楽しかったようです。石に種類があることを初めて知ったとか名前があるんやなとか、そういう感想が幾つも見られて、それがびっくりしたことです。 ・アンケートの感想には、新しいことを知って楽しかったとか、この活動を始めて家族で瀬田川沿いを散歩することが増えたとか、自分はこんなすてきなところに住んでいるんだなと知ることができてうれしいとか、ふだんの生活の中でもごみなど気をつけられることを一つ一つ実践していきたいとか、これは漁協さんがいろいろお話をしてくださったことなんですけども、そういう記述がありました。このことから、参加者が瀬田川のよさや大切さに気づき、関心を高めて、課題を自分事として捉えるようになってきているかなということがうかがえています。 ・今後やってみたい活動を尋ねたところ、引き続き行いたいという意欲のあることが分かりました。そのほかに、歴史ウォークや釣り、生き物調べ、食べる活動。これは今年していませんでしたが、このように高い希望があるということが分かりました。自分で釣った魚を調理して食べることをしてみたいというふうに書かれている回答が複数ありました。このようなことを見て、自分に身近に感じられる、より実感できる活動が求められているように感じました。この実現可能性を探りながら計画をしていきたいと考えています。 ・小学校での学習を規定している指導要領の記述については前回報告させていただきましたので、割愛します。 ・このような表を整理することで、例えば根木山さんの授業に参加させていただいたんですけども、自分としては、子供の今までの学習経験や理解度、今後の学習の展望などを考えながら効果的に参画することができたのではないかなと考えています。 ・その他の活動としては、夏にウォーターステーションで水草展を行いました。準備や展示をしているときに関心を持って話しかけてくださる方から有益な情報をたくさん得ることもありまして、また河川レンジャーの役割や活動についてもいろいろお話をすることができて、先ほど言わ
--	---

		<p>れたように、何か活動すると、イベントなり何なりをすると、そこから広がっていくものがあるんだな、それが大切なんだなということを今回学びました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今月16日には、根木山さんたちの活動と重なってしまって申し訳ないんですけども、水鳥帽子づくりのワークショップを予定しています。参加者はまだ少ないんですけども、またよかったらのぞいてください。 ・ 関係づくりについてですが、保護者からは、たんけんたいで子供・大人の別なく楽しく共に学ぶことができたという感想をいただきました。子供も自分の気づきを周りの人に進んで伝えていく様子がよく見られました。私としては、振り返りの発表時などに、場の雰囲気づくりを大切に、参加者の方たちが安心して発言できるような雰囲気づくりに心がけました。 ・ 活動へ関わってくださった方です。支援室の皆さんや、ほかのレンジャーの方からたくさん助けていただきました。多くの学びを得て、じっくりと関係が築けたと思っています。 ・ 今後の課題としては、中間報告でもお話ししたように、自分自身の力量をもっともっと高めていかなければと思っています。来年度は、防災・減災に関する活動、それから子供たちの思いをもっと取り込んだ活動にしていきたいと思っています。 ・ 今までの工程はご覧のとおりです。多くの方にご支援いただきながら1年間活動できたことが大変うれしいです。ありがとうございました。 ・ これで私の報告を終わります。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野村レンジャー、ありがとうございました。 ・ では、委員の皆様から質問、ご意見等をお伺いします。どなたからでも結構です。どうぞご発言ください。・・・はい、平山委員、どうぞ。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご発表ありがとうございました。 ・ 2点ありまして、スライドの14枚目と15枚目の間でちょっと話が飛んだなという感じがあります。ご自身のされた活動のご紹介とアンケートの結果を紹介いただいた後に小学校学習指導要領の記述の整理というのがありますが、これを整理する目的と、ご自身の活動とどうつながっているのかというのを教えていただけますか。
	R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・ つながりから言わせていただきます。私の活動が小学校の子供たちを対象にしていますので、川の問題を扱うときに、どこの学年でどの辺りまで知っているのかとか、どういう学習経験を持っているのかということをご自身が知っておくことは大切だと思ったんですね。なので、スライドの3ページのところでお話ししましたが、この取組の効果をしっかりと押さえるために学校での学習との関連を学習指導要領の記述をもとに整理していったということです。よろしいでしょうか。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校での学びのどこに位置づけられるのかを説明したいということで

		すか。
R野村		・説明したいではなくて、例えば私であったりとか、小学校の子供たちに関わる活動をしていく者がある程度ベースとして、知識として持っていることが有効ではないかというふうに思ったので、関連整理をするという活動は私にとっては大事だなと思ったんです。
平山		・ちょっと理解が追いついてないんですけど、それをする目的を次から明記いただければなと思います。 ・もう一つ質問です。提出いただいている報告書の一番最後の課題のところで、これは先ほど根木山さんにも確認したことですけれども、この中に書かれている「何々をしたい」ということは課題としては読めないんですが、具体的に何を課題として感じられたか、教えていただけますか。
R野村		・アンケートにも結果として挙げていたんですけど、次年度の取組についてお話しするときにも出てくるんですけども、子供たちが「自分たちは主体的に参加している、活動している」ということを感じたときにその活動の目的がもっと達成できるというふうに自分は考えていて、でも、今年は自分が「こんなことをやりますよ」「これをやってみましょう」、「じゃあ、頑張っって取り組みました」というような発信者と受け手みたいな感じの関係になりがちだったんですね。だから、そこところが課題なんです。それは、子供たちがどのような瀬田川にしたいと思っているか、子供たちの思いを取り入れた活動にしたいというところで書いていることです。こんなお答えでよろしいでしょうか。
平山		・分かりました。「していきたい」ということは、それが今年度は不十分だったということでもいいんですか。
R野村		・そうなんです。自分としてはそう思っています。
平山		・はい、分かりました。ありがとうございます。
中谷		・ほかにいかがでしょうか。はい、北井委員、どうぞ。
北井		・1年間お疲れさまでした。遠方からいらしている、初めて入るフィールドだと思ってたんですけど、これだけコンテンツをそろえて講座をつくれるのもピンポイントに関係を持たれて作られたのかもしれない。すごいご努力とご苦労があったらろうなと思いながら拝見してました。 ・今年度参加された親子の方たちとの次年度の関係はどうなるのかというのをちょっと伺えたらと思いました。皆さん熱心に参加されている様子が分かったので、どんなふうかなと思いました。
R野村		・来年度たんけんたいを続けるんだっただけで応募したいと言われる方がほとんどというか、そうやって言うて帰らしたんですけど。一応抽選なので入れるかどうか分かりませんよというようなことは言ったんですけど。
中谷		・抽選ですか。
R野村		・はい。

	北井	・継続オーケー？
	R野村	・継続オーケーです。そのつもりでいます。
	若公	・これって、今年も抽選したんでしたっけ。
	R野村	・しました。
	若公	・ああ、そうなんですね。なるほど。結構な倍率と言ったらあれですけど、かなり。
	R野村	・すいません、1.5倍で。
	若公	・いや、すごいですよ。
	北井	・習熟具合によると思うんですけど、「お手伝いやったらぜひ」とかいう感じでもいいのかもしれないと思いました。ずっと参加する、ずっと正当の立ち位置じゃなくて、「これを手伝って」とか言って助けてくれる、という粹などもどうでしょうか。そうすると、かえって世話が増えるかもしれないけど、ちょっと違う関係性もあってもいいかなと思いました。
	R野村	・はい。そういう声もいただいているので、ありがたいです。呼びかけたいと思います。
	中谷	・はい、ありがとうございます。 ・ちょっと時間のことも気になってまして、この後3人さんから次の計画も発表いただかんといかんで、時間配分を考えましょうか。皆さんもそれぞれ言いたいことはいっぱいあると思うんですが、申し訳ないけど、当初の予定から少し削らせてもらうというのはどうですか。
	△中西	・はい。次年度計画はある程度この発表でも出てきましたので、3分削らせてもらって、7分でお願いします。
	中谷	・はい、そうですね。レンジャーさん、申し訳ないですが、ちょっと凝縮してよろしくお願いします。 ・委員の皆さんからまたご指摘の点等あるかもしれませんが、時間のこともありますので、申し訳ないですけど、年間活動報告はここまでとさせていただきます。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 審議事項 (1) 河川レンジャーの辞任について	中谷	・では、次に議事次第にあります「審議事項」ということで、これを順番に進めさせていただきます。 ・まず、「河川レンジャーの辞任について」ということで説明をお願いします。
	△中西	・審議事項の1つ目、資料-4の「辞任届」という一枚物をお配りしてございます。 ・河川レンジャーの辞任ということで残念なんですけれども、12月の中旬に西島レンジャーから辞任の申出がございました。その後、支援室のほうから休止という選択肢もあるのもう少し続けられないかというお話

		<p>もしていたんですけれども、辞任届の理由のとおり、仕事の業務量が増加して随分仕事の関係が変わってきたために両立が困難ということで、その状況が変わらなかったということもありまして、1月21日に辞任届が出されたということでございます。この場でのご審議をお願いいたします。</p>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいま説明がありました。資料にありますとおり、西島レンジャーから辞任の申出があったということと、その理由としては仕事の業務が増えたために両立が難しいということでありました。残念なことではあるんですが、本人さんからの申出、また、今もご報告がありましたとおり、支援室でも当たっていただいた結果がこうしたことになったということで、これはもう認めざるを得ないのかなというふうに思います。 ・それで、規約では議決したという手続になりますので、委員の皆様、いかがでしょうか。はい、平山委員、どうぞ。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・もちろん認めるということでよいかと思います。1つ気になるのは、活動期間が比較的短かったかなと思いますが、河川レンジャーが辞めるときに地域でお世話になった方や関わりを持ってた団体の方にきちんと「辞めます」という報告は、個人の責任として西島さんにお任せするというでいいんですかね。 ・基本的にそうだと思うんですけれども、これで瀬田川の活動をされるのがお一人になるので、そうすると「もう一人の河川レンジャーはどうされたの？」というふうに聞かれることも同じフィールドだとあり得るかなと思ったので、もし必要であれば、その辺を支援室の方にサポート、フォローいただいたほうがいいのかと思いました。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。ご指摘ありがとうございます。そのとおりで。 ・今の過程の中でどうですか。今、平山委員からお話があった、例えば西島さんとお付き合いのあった団体さんがあったと思うんですけど。
	M松岡	<ul style="list-style-type: none"> ・西島さんにおかれては、ご応募のときもそうだったんですけど、「釣り人目線での瀬田川を見て」というのがレンジャーの動機の一つであったのかなというところから、どちらかという、瀬田川筋で利用されている釣り人の皆さんが秋の清掃活動の参加者でもあったというところがございます。 ・私ども事務局も西島さんにつながってた釣り人の方とはこちらのウォーターの利用の関係で面識もございますので、そういったところでまたフォローアップなりしていければというふうに思っております。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございます。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・では、そういう後のフォローもしっかりしていただくということで、西島さんのレンジャーの辞任は認め、確認するというにさせていただきます。せっかく応募して頑張っていたのに残念ではあるんです

		が。
--	--	----

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 審議事項 (2)2024年度河川レンジャー年間活動計画(案)【暫定版】	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・では、次、年間活動計画に移らせていただきます。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・資料－5「2024年度河川レンジャー年間活動計画書【暫定版】」ということで、暫定計画をお出しいただいております。この暫定版をもとにアドバイス、また承認いただいて、次年度の正式な計画が承認されるまでの間、4月から数か月分の活動を担保していただきたいと思っております。 ・先ほど申しましたけど、発表時間7分、質疑3分としたいと思っておりますので、よろしくお願いします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・では、お願いします。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・河川レンジャーの根木山です。先ほどに続きまして、来年度の年間活動計画（暫定版）ということでご説明させていただきます。 ・お手元に文書はつけさせていただいているんですけども、課題とか背景のところは先ほどの報告に代えさせていただきます。 ・具体的に、先ほども平山さんからご指摘いただいたんですけども、課題の部分として、このスライドにあるように、下流部・中流部・上流部でできそうなことは見えてきたんですけども、多分1人で全てではできない中でどこに焦点を絞って来年度やるのかということをし少し迷っているというか、思案している状況です。そこにまた先ほどの続きでいろいろご意見いただけたらありがたいなというふうに思っています。 ・野洲川上流部に関しては、3月16日に場を持ちますので、そこでどうい方が参加されてどういう意見が聞けるのかということもこれから聞いた上で考えていきたいなと。1つは清掃活動を続けていくというのが仮想としてあって、もしくは、先ほどあったように、ここではビワマスの遡上とかが確認されてますので、産卵床を住民参加でつくるというアイデアもあって、下流部で活動している住民からそういう活動をしてみたいというニーズもあるので、そこをつないでいくというのも一つの在り方なのかなというのは仮定としては思っています。それはとりあえず3月16日を踏まえて考えていって、次の委員会では明確に「これをやります」ということが出せるようにできたらなと思っております。 ・中流部のほうは、5年計画で、これからですので、そんなに慌てて何かをする必要はないと思うんですけども、1つはチュービングというのを1回やってみてもいいのかなと思っていて。この間、下流部で活動している住民グループの方にも「こういうのをやってみる？」という話をしたら興味を持ってくださっていたので、下流部でつながった住民グループの方と一緒に中流部でチュービングの試行をとりあえず1回やっ

		<p>てみるというのもありかなというの思っています。あと、長い目で見ると、県有地のところで活動している住民グループや子育てサークルと関わりを持って一緒に何ができていくのかを探っていくというのは想像しやすい部分かなとは思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下流部では、中洲学区が行事をするということで決めていただきました。ただ、具体的にどうできるのかというのは事務局である中洲学区の職員さんもまだ見えてないという雰囲気ではあったので、どのぐらいの規模のものになるのかがちょっと想像がつかないんですけれども、そこは伴走していく必要があるだろうなということは感じております。 ・そんな感じの中で皆さんからもご意見をいただけたらありがたいなと思っております。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございました。 ・では、年間報告もしていただいた後、続きではあるんですが、今ほどお話しになったとおり、今後の展開について委員の皆様からアドバイスなり、ご意見をお伺いいたしますが、いかがでしょうか。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・この上・中・下流で関係者とか団体の重なりというのはどの程度あるんですか。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・多分、基本的には重なってないと理解していただいて。中流・上流は行政としかやってないので、直接住民とはまだ出会ってないんですけれども、基本的には重なってないですね。 ・あとは、下流部でつくった住民グループというつながりを中流部の活動や上流部の活動に引っ張ってくることはできるのかなと。産卵床づくりとかチュービングみたいなことをまずは試行として一緒にやっていたく、ファーストペンギンになっていただくみたいなのところはできるのかなと、そんな感じで考えてます。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりました。 ・私が知っている限り、県内の河川でも上下流の連携がうまくいっている事例というのはあまりないんじゃないかなと思ってまして。以前、野洲川で山の活動と川の活動がつながってた時期もあったと思うんですけども、実質的には難しいんじゃないかという印象は持っています。ただ、根木山さんの活動は比較的狭い範囲、野洲川の下流域の中での上・中・下流なので、もしかしたらつながる可能性があるかもしれないと思っています。もしよければ、そういうことを期待しながら人のつながりを意識してされると、つながるかもしれないなというふうに思いました。 ・あと、内容とは全然関係ないんですけども、研究だと希少種の保護という観点からその生息場所を明示しないという場合があります。この資料は公開されると思うんですが、その点で大丈夫かというのは後で根木山さんと事務局のほうで確認いただけたらなと思います。

中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ご指摘ありがとうございました。 ・ほかにいかがでしょうか。はい、若公委員、どうぞ。
若公	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろとありがとうございます。 ・先日の意見交換に私は参加できなかったんですけど、チュービングみたいな話を私が「やりたいな」なんて言ってペーパーをお配りしたりもしたので。 ・ちょっとまだ安全性とかは全然分かってなくて、皆さんに「はい、やってください」というようなフェーズでもないと思ってますので、来年度は事務所でも職員で試しにやってみるようなときにもしご都合がつきそうだったらお声がけをさせていただくぐらいの感じでとりあえずいいのかなというふうに思ってます。活動がたくさんある中で「特にこれをやってくれ」というふうに言うつもりはございませんので、またいろいろと連携をさせていただければと思います。 ・ただ、チュービングも「野洲で乗って、守山で降りる」みたいな中下流連携のツールにもなればいいなというふうにも思ってますので、今後ともよろしく願います。 ・以上です。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・水上さんの清掃活動にその住民グループさんに声をかけて参加してもらっているみたいな感じで、職員さんでやられるところに声をかけさせていただくといったつながりは多分できるかなと思います。逆に、ふだんから慣れてはるので、初めて河川活動をする住民ではないので、そういう意味ではファーストペンギンにはなってもらいやすいかなと思いました。
若公	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりました。ありがとうございます。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございます。 ・申し訳ないですけど、次に進めさせていただきます。
△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・では、水上レンジャーはお手元の資料の3ページになります。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・お手元の資料の3ページを見ていただきたいんですが、「今年度の成果目標」は全部で4つあります。河川清掃は引き続き進めていって、住民主体の川づくりを目指していきます。親水公園のところも同じような形で引き続きやっていきます。それから、住民の声を聴くということと4番の野洲川中流域・上流域の活動に向けての具体的な取組、これをドッキングさせてどうするかというのを考えたものがありますので、それはこの後で説明させていただきます。 ・4ページを見てください。野洲川河川清掃も同じように続きますが、住民主体とするために秋の第2部では先ほど言いましたボランティア委員会にかけながら進めていきたいと思ってますので、どういう形になるかは変更になると思います。 ・あと、上流域は根木山さんと一緒にやっていこうと思います。

	<ul style="list-style-type: none"> ・中流域について今からパワポにて説明をさせていただきます。 ・活動場所は、野洲市MIZBEステーションかわまちづくりです。 ・場所は野洲川の北流側帯のところ、6.6キロのところこういう計画があります。 ・どういう計画かというのは、ここのMIZBEステーションとかかわまちづくりのところは県の土地で、県立高専もできるらしいです。MIZBEステーションエリアがここで、特にこのかわまちづくりエリアはちょうど私のテーマになるところにあります。 ・先ほど若公事務所長から話がありましたけど、今年度こういう形で協議会を進めていくということで、上の4つまでは行政のやることですので河川レンジャーはあまり関係ないと。一番下の赤で書いている「具体的な利活用に関する住民意見聴取」、これをワークショップでやってみたいなど。先ほど言っていました、住民の意見を聴くのはいいけども、それをどう生かすか。この事業がちょうど立ち上がりましてので、これがまさに河川レンジャー活動だと。河川清掃とはまた違う切り口ですけども、利活用についての住民の意見をしっかり聴いて、「みんなで川づくり」のところの調整・つなぎ役ができるんじゃないかということでこれを考えてます。 ・ただ、これで悩んでいますのは、根木山さんと一緒に、下流部はあれだけ進めていかないかんし、上流部では河川清掃をしなあかんし、中流部ではこれをやらなあかんし。先ほど河川清掃で説明しましたように、行政とか、全部調整せないかんので相当プレッシャーがかかるところなんです。私はこれがまさに河川レンジャー活動の一つではないかと考えてます、重要なところの。流域委員会で言われてた、住民の声をちゃんと伝えて、それを川づくりに生かすような橋渡し役ではないかなと。これは感想をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。 ・特に、平山委員が言われたように、私も気をつけないかんのは、河川レンジャーは中立の立場で、なおかつ河川管理者や行政の下請ではないと。そういう進め方をせないかんから、今は細かい計画は立ててませんけども、今月ぐらいから野洲市のほうにいろいろ調整しに行って計画を立てようと思っておりますので、そういうのも含めて河川レンジャー活動としてどういう形で進めていくといいか、ぜひ助言や感想をいただきたいと思っております。これを受けて計画を暫定版から完成版にしようと思っております。よろしくお願いします。 ・活動内容のところは先ほど説明しましたので、これは終わります。 ・以上です。よろしくお願いします。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・水上さん、ありがとうございました。 ・皆さん、いかがでしょうか。・・・つなぐという面では、今お話しのとおり、つつきに行っても非常に難しい面があるんやけど、例えば、先ほ

		<p>どからあったように、フィールドとして野洲川で何かアクションが起こされます。例えば、河川管理者からの仕事が出るとか。そういうところを、長い目で見て、今後地元で見守ってもらえるようなのを育てていく的な感じからすると、やっぱり地元周辺に住んでいる人は無視できないと思うので、いかに興味を持ってもらうか。それは、野村さんの話にもあったように、「何気に見てたらそうやけど、実際手に取ってみるとやっぱりちゃうよな」という感動的なことが出てくると思うので、とにかく一步を踏み出してもらいたいような仕掛けといたしますかね。例えば「そこはピワマスがおります」——まあ、発表すると取りに来る人が増えるのかもしれないけど、「この辺からこの辺までおりますよ」と言うたら、流域というか、その地域が一体となって見守りましょうかとか、さっきの希少植物でもそうやけど、多分がらがらしたところが好きやからどこでも生えるんちゃうんかというふうに思っていて、「実はこんなのがありますよ」みたいなやつを、住民全体ということではなしに、あるポイントとなる、例えばいつも川遊びしている子供たちとか、そういうところへうまく情報を流していくみたいなどころから始めていかんとしやあないんちゃうかという気がしてますね。</p>
	R 水上	<ul style="list-style-type: none"> ・私がもう少しダイレクトに考えていますのは、今ワークショップをやろうとしているんですね、野洲市なり、行政のほうは。そこに入り込んでいって、きちんと住民の意見を聴くと。ちょっと大変なんですけどね。ほんで、全部仕切るのは難しいから、部分的に野洲市なり琵琶湖河川事務所の行政の人と一緒にそういうワークショップの中に入って、河川レンジャーとして中立の立場で住民の意見を聴くと。悪いこともいいことも聴いて伝えるというのがダイレクトで分かりやすいかなと思って。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・うん。まあ、機会としてはね。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> ・関係性がいま一つ分からなかったので整理したいと思って教えてもらいたいんですけど、協議会運営をされているのは野洲市さんだと思います。ワークショップをされるのも野洲市直営の実施になるのか、例えば委託事業者へ出すような話を「河川レンジャーさんをお願いします」と聞いているということなのかがちょっと分からないです。 ・野洲市として運営されていく利活用のアイデアに市民にもっと関わってほしいというニーズがあり河川レンジャーが少し協力して、ノウハウなり、助けてもらいたいというような打診があったりしたのか、そこはいかがでしょうか。
	R 水上	<ul style="list-style-type: none"> ・実は、この前、初めて行政の方、琵琶湖河川事務所と野洲市さんと現場で話をして、意見交換をやりました。その結果、野洲市さんとも——委託されるかどうかは分かりません。ただ、河川レンジャーとしてそういう形で関わるのはどうですかと言ったら、いいことですねと。
	北井	<ul style="list-style-type: none"> ・提案してみたということですか。

R 水上	<ul style="list-style-type: none"> ・うん、そうそう。で、いいことですねということをおっしゃっていますので。ただ、何遍も言っていますけども、野洲市の下請的にやるのはおかしいことですので、あくまで中立の立場で住民の意見を聴いていきたいなど。ダイレクトが一番分かりやすいかと思ったので今度細かく計画をつくってまた承認していただくかなと思っているんですけど、そういうのはやめたほうがいいとか、感想でも結構ですので、言っていただけたらと思います。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・私個人としては、どんどんやってみてもらったらいいと思っています。
R 水上	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、分かりました。ありがとうございます。また支援室を通じて相談させていただこうと思いますので、よろしくお願いします。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の皆様方も、中途半端なことになってて申し訳ないんですけど、また聞いてもらった中で「こういうことはどうや」みたいなことがあったら支援室宛てにメールなりで届けていただくとか、方法は何とでもあると思います。今日は暫定で承認するということにして、年度が替わりましたらまた発表いただく機会があるので、そのときに、今日みたいにはばたばたせず、もう少し時間を取ってしゃべれるような設営もしてもらえるとありがたいなと思います。 ・野村レンジャー、お待たせしました。
R 野村	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。来年度の年間活動計画（暫定版）についてお話しさせていただきたいと思っています。よろしくお願いします。 ・22ページです。都会の川だなという雰囲気が伝わるかなと思って、この写真を持ってきました。 ・今年度の瀬田川たんけんたいの成果として、活動の様子やアンケートの記述から、参加の親子が川のよさや価値に気づいて、ふだんから川の様子を気にするようになったことが挙げられると思います。「川での活動って、楽しいなあ」と感じたら、活動に積極的に参加している様子が見られています。川を理解を通して自分の住む地域の特徴やよさを発見して、愛着が増していることも感じられました。川のいろいろな価値を知ってほしいという私の願いから活動を組み立てたことで、目的に合った活動ができたと思います。 ・でも、その反面、それぞれの活動が単発になりがちだったことが私の反省です。来年度は、各会の活動で参加者が得た気づき・問題意識をぜひ蓄積して、見える化して、川と自分自身の関係の全体みたいなものが通して見えるようにしていきたいと考えています。 ・また、先ほど申し上げましたが、今年度、主催者である私が活動を設定して、それを参加者が行うというスタンスになりがちだったことを反省しています。「～しましょう」「はい！」ということです。主催者側として幅広く準備をしながら、子供たちがそれぞれの主体性を発揮して、自らの思いを自覚して活動していく姿を来年度はぜひ目指したいと

		<p>思っています。そうすることで、より川への愛着が高められると考えます。今年度行ったアンケートを活用したり、積極的に参加者の意見を聞いたりして、一連の流れを持った活動にしていきたいと思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度のたんけんたいの暫定版募集チラシです。年度と時期は変えている部分があるんですけども、内容は変わりません。ただ、そこに先ほどお話しした意識の継続、主体性が発揮できる場の設定を考えて行ってきたいと思っています。承認が得られましたら早めに市教委の後援をいただいで、来年度はぜひ近辺の小学校にもチラシの配布ができることを希望しています。 ・実施要項は皆様のお手元にあるかと思います。ご指導いただいでご承認いただけますよう、お願いいたします。 ・今年度、学習指導要領における「川」に関する用語の整理をしました。教科書の改訂・採択が行われて、来年度の使用教科書は教科書会社や扱われる題材が今年度のものとは変わるものがあります。教科書で扱われる題材というのは社会の動静や思いが反映されていると私は思っていて、内容について一応把握・整理しておくことは意味があると考えています。一般の書店で購入できたり、公共図書館で閲覧できるようになるのは夏以降になると思っています——これは夏に行われた採択教科書の展示会の様子なんですけども、こんなふうにして一応題材は見ているんですけども、かなり変わっているなと思いました。特に国語や社会科、家庭科の教科書に注目したいなと思っています。 ・そのほか、地域の方を対象としたワークショップを開催したいと考えています。たんけんたいのアンケートで希望があった歴史ウォークや自然遊び、生き物調べ、調理体験などのうち、幾つかができればと考えています。実際に体験することを通して地域の歴史や文化、産業などを理解することは防災・減災にもつながると考えています。施設や設備の見学などの際には河川事務所さんのご協力をぜひお願いしたいと思っております。 ・工程計画はご覧のとおりになっています。 ・暫定計画をご了承いただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、発表ありがとうございました。 ・委員の皆様から質問、ご意見等お伺いします。どなたからでも結構です。どうぞご発言ください。沼田委員、どうぞ。
	沼田	<ul style="list-style-type: none"> ・発表ありがとうございました。 ・先ほどの実施報告の中の来年度の予定に、釣りとか、ほかの内容もあったかと思うんですけども。
	R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・釣りについては、歩いて釣りをされている方に話を聞いたり、いろいろ

		<p>しているんですけども、ほとんど釣れなくなったという話がありますので。ただ、釣りをされている方の外来魚の扱いについて自分的には疑問に思っていることもありまして、ちょっと微妙なところなので、それは調整をゆっくり丁寧にやりながら今後考えていきたいと思っています。</p>
	沼田	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりました。 ・親子で楽しく学べて、子供たちにとってはいい経験だと思いますし、瀬田川のよいところだけじゃなくて、先ほど漁業者との関係のところでも外来植物の駆除のことも勉強されてたと思うんですが、今琵琶湖で起こっている課題とか、そういう悪いことも一緒に合わせて取り組むというか、勉強できるような内容にさせていただけたらなと思いましたので、意見だけですけれども、言っておきました。
	R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかにいかがでしょうか。・・・事務所さんではどうですか。例えば洗堰の見学会とか、物はいっぱいありそうですね。
	若公	<ul style="list-style-type: none"> ・もちろんリクエストがあれば喜んで対応させていただきますが、小学生の方だと、もしかしたら、ちょっと難しいかなとも思います。それでも、なるべく分かりやすく、丁寧に子供向けに説明させていただきたいと思います。誰かがやるか分かんないけど（笑）。あと、課題の中に防災・減災に関する取組。これもお子さんにはなかなか難しいなと思いつつながら、我々も逃げずに、ご期待があればチャレンジをしたいと思います。 ・質問は、子供向けの瀬田川たんけんたいは引き続き今年度とおおむね同じメニューでやっていただくのと、地域の方は、子供だけじゃなくて、別口でという、そういうイメージですかね。
	R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。
	若公	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりました。いや、瀬田川たんけんたいだけでも物すごく大変だと思うんです。さらにやっていただくのは非常にありがたいと思うんですけど、その辺は我々もできることはやらさせていただきますので、またご相談させていただければというふうに思います。それが1点。 ・基本的に今年度と同じであれば活動はほとんどそのままでもよろしいんじゃないかというふうに思いますので早めにPRというのは賛成なんですけど、逆に、去年も希望をされた方が全員じゃなかったんで、たくさんチラシをまいちゃって大丈夫かなというのがちょっと心配なんですけど、もしその辺の見通しとか考え方があれば教えていただければと思います。
	R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬田川でこんなことをやってますよということは子供を通じておうちの方に伝わると思うので、もちろんウォーターとかのホームページには載せていただいているんですけども、広報の一つとして……思います。
	若公	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりました。ぜひと思いますし、その中で、先ほどおっしゃられたみ

		たいに、北井さんからもお話がありましたけど、もしいっぱい来たら、今年参加した人はご遠慮いただいてみたいな形になっちゃうんですかね。
R野村		・もう公平に抽選と言ってしまったので、すいません、今回については。また来年度もしあれば……。
若公		<ul style="list-style-type: none"> ・いえいえ。特に「どうせえ」というのは全くないんですけど、どういう考え方かなと思って質問させていただきました。 ・そういう意味では、全員新しい方だと、毎年空気づくりをリセットしてというのは結構大変なので、先ほど北井さんがおっしゃったみたいに、経験者としてサポートチームみたいな感じに入っていただくというのは物すごくいいアイデアじゃないかなというふうに思いましたので、ぜひとも考えていただければと思います。 ・以上です。
北井		・若公委員がおっしゃられたのとほとんど同じですけど、よい内容なのと、毎年輩出していくのも偉大なことなんですが、多分、河川レンジャーとしては、ほかの根木山さんなり水上さんなり、どうやって主体を続けられるように移していくかというところを苦労されているので、やっぱり受皿になる基盤づくりみたいな、仲間づくりから始まるのか、そこがどんどん難しくなってくると思います。そういう仲間が早くできてくるといいなと思って、次年度はつながりがイメージできるようやったらいいんじゃないかと思いがらうかがいました。
R野村		・ありがとうございます。こちらにお見えになっているお客さんとか、あるいは会の方が「何でも言うてな。手伝うで」と言ってくさっているんで、グループで長く続けられるようにやっていきたいと思います。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございました。 ・今、暫定計画を発表いただきましたし、次年度に向けてこのまま準備を進めていただいたら結構かなというふうに思っていますが、ほかの委員の皆様、そういうことでよろしいですかね。 ・審議やから、承認ということですよ。
△中西		・はい。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・暫定版ということで発表いただけてますが、一応審議事項ということにもなってますし、先ほども言いましたように、追加のご意見等々ありましたら、またいろんな方法で支援室宛てにお伝えいただければ結構かと思っておりますので、今発表していただいたとおり、暫定計画は承認するというにさせていただいて、年度が替わりましたら、適切な時期に年間計画として発表いただくと。また、そのときには、先ほども申しましたように、うまく意見交換ができるように設営を考えていただきたいなと思っております。 ・ということで、暫定計画としては承認するというにさせていただきます

		<p>ますが、よろしいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございます。では、そういうことで、レンジャーの皆様、またこれをもとにうまく活動を進めていただいてということによりよろしくお願いいたします。
--	--	--

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 審議事項	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・では、3点目のことについて説明をお願いします。
(3)規約・活動要領の見直しについて	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・暫定計画、ありがとうございました。 ・では、残る審議といたしまして、資料-6でございます。規約・活動要領の見直しということでございまして、前回の70回委員会のときに規約の改定、活動要領の見直しということで提案させていただいております。 ・主な内容としましては、1ページ目に書いておりますけども、1つは委員会の委員の任期についてご提案しております。委員の任期を1年から2年に変更する案でございました。 ・それから、琵琶湖河川レンジャーの任命の年齢について。前回、主にこの部分で意見交換していただいたところでございますが、内容としましては、現行、規約も含めて活動要領には記載がございません。ですが、ウェブの案内では「任命は満20歳以上」という表記になってございます。また、成人年齢が引き下がったこともあって、活動要領に「18歳以上」と記載することが適切ではないかということでご提案させていただきました。 ・3つ目は、整備計画の見直しに伴って少し表現を変えるというものでございます。 ・1ページ目の下に年齢についての主な意見を再掲させていただいております。まず、成年でないとは謝金が支払えないのかということについては、特に成年・未成年というのは問題ないというような意見交換がなされました。また、年齢を規定してしまうと、意志を持った未成年が応募した場合に制限をかけてしまうのは残念なことじゃないかというようなご意見ですとか、河川レンジャーは1人で活動することもあるので安全面も含めて成年の想定だったのではないかとということもございました。 ・事務局では、ほかの管内の河川レンジャーはどうなっているのかという問いもありましたので、各河川のレンジャーさんの運営要領を見させてもらって、次の2ページに規約等を掲載しております。 ・まず、左側が淀川の河川レンジャーです。太字で書いてございますが、任命基準として第20条に「(1) 満18歳以上満74歳以下の者であること。」という規定がございました。それから、真ん中が木津川上流の河川レンジャーです。名張川、木津川の上流で活動されているところですが、ここでは「満18歳以上の者であること。」という規定がございまして。また、

		<p>右側の猪名川の河川レンジャーでございますが、ここでも「成年。」という規定がございました。琵琶湖では、今のところ、規約、運営要領的にはなく、ウェブ上では「20歳」になっているということでございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3ページ目以降は、仮に提案した規約が反映された場合のということで赤字で追加の文字を入れてございます。ここはご議論の後に埋まるものかと思っておりますので、今日ご議論いただいて、ある程度規約が固まればということで考えてございます。よろしくお願いいたします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・今、事務局から説明をいただきました。 ・まず、3点といいますか、活動要領の改正ですね。年齢については前の委員会でも議論があったんですが、ほかの例も調べてもらい、また、法律的に、世の中的には成人の年齢が引き下げられたということもあり、謝金ももらっていただく中、社会的に一定の責任といいますか、そういうことであろうかと思うので、一定の線引きとして「成人」というところを入れてはどうかという提案でございます。この件に関して委員の皆様からご意見ありましたらお伺いします。・・・はい、どうぞ。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・意見ではなくて、河川レンジャーの年齢については私が発言したところだったかと思うんですけども、調べていただきましてありがとうございます。特に異論はありません。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございます。 ・では、ほかの委員の皆さんもそういう形でよろしいでしょうか。 ・はい、ありがとうございます。では、年齢の件はそういうふうにしていただくということで。
	若公	<ul style="list-style-type: none"> ・1点だけ。 ・平山委員、ありがとうございます。事務局なんかともいろいろ相談をしましたが、結果的には並びを取ったという形にはなりましたが、それなりに一定の謝金のお支払いもあるというところと、あとレンジャー自体が、ただ活動するというだけでなく、市民と行政の間に立つという役割というもの——まあ、ぱっと来て、なかなかすぐにできるような役割でもないのかなというふうに思ったときに、並びを取ることだけではなくて、やっぱり「成年」というところは残しておいたほうがというふうに私としても考えましたので、そういう提案をさせていただきますというのを補足させていただきます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございます。今、お聞きのとおりです。 ・では、次に規約ですね。まず任期については、長年、年度ごとということでしたが、先ほどのように計画の暫定版を公表していただいたりということもあるので、継続性を考えたときには——まあ、「1年と2年とどうやねん」ということはあるかもしれませんが、連続性も考えて2年間という提案をいただいているわけですが、私は一定こういうこといいのかなというふうには思っております。ただ、現実的に私は長いこ

		とやらせてもらっているので、適宜、世代交代といたしますかね、そういうことも踏まえつつ、この提案でというふうには思いますが、いかがでしょうか。・・・前の委員会でもちょっと言ってもらったんですけどね、2年間ということは。
	△中西	・はい。
	中谷	・ご異論ないようでしたら、先ほど見ていただいた、初めのほうの赤字のところとともに規約を改定していくということにはどうかと思いますが、いかがでしょうか。・・・冒頭言いましたように、規約の一番初めの行ですね。整備計画もこの間変更されたということもあり、あと任期のところが大きいかと思うんですが、第6条「委員の任期は委嘱された日から2年間とする。」という提案をしていただいておりますが、この点に関してどうですか。沼田委員、平山委員、何かご意見、ご見解等ありましたら。
	平山	・特に異論はありません。
	沼田	・同じです。異論ありません。
	中谷	・はい、ありがとうございます。 ・では、そのように本日決定させていただきます。
	△中西	・ありがとうございます。 ・そうしましたら、3ページからの規約の改正案でございますけれども、赤字のとおり、まず3ページの冒頭は河川整備計画の変更の年月や名称を入れて変えさせてもらうことと、4ページは、今ご議論ございましたように、1年を2年にさせていただくと。そして、5ページで本日の日付をもって改正いたしますということでございます。 ・また、活動要領でございますが、6ページの第2条の「(定義)」では、先ほどの規約と同じ、整備計画関連の文言の修正でございます。第5条の「(任命及び解任)」というところに「(3) 成年であること。」を明記させていただきます。(1) (2) はもともとあったものでございますが、(3) を加えさせていただいたということでございます。そして、9ページの改正年月日を本日の日付で入れさせていただきます。
	北井	・第5条の(2)も新しいですね。なので(3)と(2)が新設項目ですね。
	△中西	・すいません。第5条の(2)も、任命・解任に合わせまして、理念とあるべき姿というのがちょっと活動要領とリンクしてないなという思いがありまして、当然任命されるときにはこれを遵守していただかないといけないということがありましたので、この部分も加えさせていただきたいということでございます。ここは説明が漏れておりまして申し訳ありません。
	中谷	・指摘ありがとうございました。 ・ただ、理念・あるべき姿については、長いこと議論をしてきて、多分こ

		<p>れでフィックスということではなくて、その都度また状況に応じていろいろ議論があるところであろうということを踏まえつつも、レンジャーさんについては遵守ということは必要であろうと思いますので。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・では、今ほど説明がありましたとおり、この資料-6については赤字の部分を改定するというので決めさせていただきます。ありがとうございます。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
4. その他	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・では、これで終わりですけども、傍聴の方はおられますか。
(1) 傍聴者か らのご意見	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は、傍聴の方はいらっしゃいません。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・では、ちょっと時間が超過しましたが、私の役目はここまでということ。

(**太字**：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
5. 閉会	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・中谷委員長、ありがとうございました。 ・少し時間がオーバーしてしまい、大変申し訳ございませんでした。それでは、以上をもちまして第71回河川レンジャー制度運営委員会を閉会いたします。本日は、お忙しい中、ありがとうございました。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・すいません。今日、レンジャーからの報告と次年度のこと、2つ聞いて思ったんですが、「今年度どうだったか」というのと「来年度どうします」、課題を挟んで「次、どうします」というのを続きで聞いたほうが聞きやすいなと思いました。そうすれば、年度末で承認してしまえば次の年度すぐ始められると思いますし、次の年度は、いつもだったら11月ぐらいに中間の報告をさせていただいていると思うんですけど、それをちょっと前倒しして、もう一回は、レンジャーの報告ということではなくて、特に困っていることとか、別の議題もできるんじゃないかなと思います。もしよければ来年度ご検討いただければと思います。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございます。重要なところだと思いますので、その辺はまた相談して仕組みを考えていきましょうか。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。ありがとうございます。